

第54回東京都公民館研究大会（報告）

- 1 日時 平成30年2月3日（土）午前10時～午後4時
- 2 場所 狛江市民ホール（全体会）、狛江市中央公民館ほか（課題別集会）
- 3 内容

本年度のテーマは「東京の公民館の未来～持続可能な地域、次世代の学びに向けて～」。

午前10時からの式典の後、基調講演として、高尾戸美氏を迎え（合同会社マーブルワーク ショップ代表）から「私たちは、どのような学びの場を目指すのか」と題し、博物館の話をされた。

博物館とは、①調査研究、②保存・収集、③展示、④教育普及が主な機能であるとのこと。

また、活動事例として多摩六都科学で取り組みを紹介された。内容は公民館とは違う話してはあったが、地域との結びつきを深めることなど、共通部分も多くあり、社会教育の重要性を感じるものであった。

午後0時30分からは4つの課題別集会があり、職員部会は第3課題別集会「公民館としての魅力ある講座とは」を担当した。

助言者には金田光正氏（月刊社会教育編集長）を迎え討議した。

参加者は60名程度、グループワークを行うため、8グループに分かれて席についてもらった。

初めは、事例報告として、東大和市職員から子育て世代対象講座「パパもママも幸せになっていい」と小金井市職員から成人学校「菜園教室」がプロジェクターを使用しながら発表した。

その後、事例報告を基づいて、グループワークに入る。職員部会のメンバーはグループ内ではファシリテータをしてもらい、積極的に話し合うようにした。

その後のグループ発表ではいろいろな意見も出て、非常に参考になった。

最後に、金田氏から本日の総評として、市民にとっての講座の意味を考えること、カルチャーセンター講座と公民館講座の違い、魅力ある講座を作る職員の役割を説明してもらう。

午後4時に集会は終了した。

その後、職員部会のメンバーが会場の後片付けをして帰路についた。